奥羽道中膝栗毛

中

へ13
1164
56

特
へ13
1164
56

奥羽一覽

道中膝栗毛初編卷之中

十返舍一九著

徒然草に仁和寺の法師足鬥をとりて頭にかつぎ顔をさし入て舞出るに皆真に入る故事に倣て彼筑羅房ハ大甕の炭斗をかぶりなるがいとにもれともぬくもあらん。扨彼らんとまれバそれハまらぬこと延高が炭斗のうへよりかぶるまねバいよ〳〵

炭斗よりそい附き。いろんなせん方なく。何へさし
置息の止まるふ苦るしさ我こゝへ兼。顔顔を色々
さゞめくゝるり廻し。自分のまゝ抜うとすれども
耳と鼻とより引かゝ至て中〳〵急ゝぬけされば。先
一息つがんとて面々まそ鼠をさし揚るゆうはして
はゞかり出し「ハア〳〵フウ〳〵。どうも蒸風呂へ
這入るよりよつぽどる苦しみざあんでもそゝくま
ぬゝせてくれるふとうまいハア多時が嚢々とぞ加望

ヤさるいでこれもア疾く助けて下さろ「あんで
がや〳〵ヤでい今評義真最中ざア鼠の中へ世を避く
ごさふッしゐるうゝ大きゞざさァーれ極くえんざ向のへんぞうを
表ゝ表「イヤ是へどのゝもとんざ心配ら出来て所苦労ざと
ハ〳〵ア迫内よ引込く居て種々ゝ氣とりまし〳〵。ガカ
年寄の分別をのつゝまがるゝぬいて出らうと思ん
て立まをこゝ出うちつひ一寮入ところ〳〵と出ゝけゝさのの
ぶゝ〳〵ント、迫あハッさ年ざろてんいら極くこんる時い

ユ夫をまるも若いうちのうぶ。アヽ南無阿弥陀佛。あとの
取るゝづけが肝要ぶ寺へでるも人を殺るあふ駄がうへア
次第重よいひつけてやりませう延き「イヤそれまでは笑
平ゐあんるさろ佛ユるべるふちくと間の有ろんさ
「どうせる佛あふ早いがい鬼角世の中ハ色廻し
ぶ肝要ぶ一年のるハ正月ふとろがけ晦日のすハ
朝日ハユ面をまるぶ上分別。やろう佛もその搭てまぶ
ろりかゝまふぬうちかゝ寺へ人をやつて死でも泣ッて

おくぶとろがけのいとといふものぶどうも年がよること
ぶせのそるりませぬ。ドレくトで先ぬく延き「エヽいまく
まのおぞいおあぶる時「アハヽヽ浜二「時よかうやつても
おけやすあへ。医者でもよんで相談をまる方がやへぶ
らう。アヽ北八あ此さるをとそたそて那所へうせやア
かつる「お医者さんるふ今戸の深河さ長ふくよう
ぶ。けつふおるまぶろうぶ。ろりなのぶ婆アさんがようこぶ
いませう。どんな貧産でもうませまたらう那駄

の中らも籠屋さんの願がう生れそうあるので
とさいかア 延う「とんでもアませうけ」しごアトいとところハナあまり
のだらアこ長家 まアア「ハイ御免なせ。こまもアどるくらも
面倒ふ長ふさるる 延う「ハイヤレそアとんどい婆さんごようやおぞいこるア
いハワしまきまい。サアちくとお上んなさろまア「やレく
ひとんまるごで死ヤて長家中がらんさろだ。ホンニ
私も身よ貧ごさるかふつまされて悲しうごさ
りヤス ホンニくお淋しくく 延う「ヤアお婆アさんどう

しるのごさるだの中でおめくよ泣きてたまるる
ものろ。まアあんごうろふ称ぶごまんなせ 延う「泣止
といひるさるごどうしてコレ泣ぞるるふれるのろ
ろしが娘のおちよぼハ先月産を去そこ福でアハフン
思ひ出そとしんが誠よ悲しくく 延う「これまア 遠
惑るこんごアそのおるげさへお乙理ぢやろがこうで
泣こうアごめんなさろコレまア奥のおろくさ食どう
ぞ此お婆アさるつれくのけておくまるさろ 延う「け

イヤくらがそだつのを居ぬとりこの時の
間よ合ませぬ。コレそうは行むつてゐるぬ。ウント
力を入ていきだるぞ〳〵〳〵 迎る「ヤレもアこりゃ丈
夫ぞ。」「そうぞ〳〵」婆アさんお爺がそばらから力
を附てやら行くと炭取が産よ勢がつる行くぞ。
ホレこの力が肝心ソレうウンゴト このそこらあんざんよりこ
いぞ〳〵ふぐのぬけぬをおりやつてゐるに こりゃあのことをあるひ
あるいはさぞ悲んぼ懐日まして。さるもかまはぬ。とりのうちなぐり
こんで居ぐらめくらのまちまて。とりてゐる。 おまん「モシおまんさんさぞびつくり

あるさいまし〳〵〳〵。子エ宿でゐ先刻お蚤ゐ。せんをは
春まつてゐる。お爺さんハ那さつきまぐおひる成お
あぐらハあるさいまはまい。何のもあませんがお茶漬を
あげませうハ「ハイ〳〵」あるうこざいます。かゆう
あるところでお蚤漬のあること方のおさとけよ
合ませうト ぐぐんの方をこそ お祖師さまの御利益でこざいま
す。南無妙法蓮華経 「ヲヤおまんさんハお宗
旨でこざいます。こちらもお

宗旨でございます子　あるえ「ヲヤお爺さんよくごぞんじ
どう為て為ます〳〵　少八「へイとやくさうの名多　小八「へ　左様
でございます。日のてんぬのい動の能りのでございます
ま。所方便さまよろく〳〵もそれ動のよいのでかき為
ます〳〵　あるえ「ある程そうぐ稼ぐト　そし
てお家のお寺ハエ　少八「ハイお寺ハ駒込吉祥寺ト申ます「
いろるるりお酒屋おさるのろエ　少八さの世ん〳〵すりめつぶこエ
どこ　「イエ何どういたしまして武せうまお世話　さ多ーこのあつ
まり

かりまもる酒屋をやてよいものでございます世そうがあ
吉祥寺ハ原のろさしの寺かせうよ眼がつぶれまして
うぶこちらぶん政宗いろ〳〵兵今でハアノ新寺町のへ　お
寺でございます　あるえ「それでハアノ善龍寺　あるうかア　少八
その善龍寺〳〵　あるえ「あそこの地中の東場所・故
人の十遍舎一九のお寺さョ。ホンニ　よくお宗旨ようおろ
りぶるエ。そして日ようハ日朝様ぶ妙でございのまいるヨ　少八
ろうふるんじんの男るれば彼ろは家のことハ
ないろくようれいのまもちぶ日蓮様いやと　「さやうでございます　藏り

御利益
ぞ
目が
あらく
ち
ら
ら
ら
ら
人を
あらふ
ら
ら
ら

めでゝ御ございます。おまへ「さうそう人ぐまるまして。おまへ
さんもおのでるさいます〳〵。こゝろ小八「此頃朝そや〳〵まる
りまし〳〵。人ぐ大勝で四ッぎまでまるせられま
し〳〵。おまへ「ヤレ〳〵そんるふ。お待ゐさいだるもよさそ
うなものでございます。そんでそんるに。お待ゐさい
ます〳〵。小八「お茶の調合ぐ。ゐふ合ません。おまへ「ヤ
日朝様でお茶をお出しゐさいますそのこと。小八「左様ウ
おまへ「ヤ。ちがて。空まの〳〵ヨ左様ろエト。けるゐふ。はちち
ゆかぜんこうらん

でゝ。おまちのさをとれば。どうもゐ。おまへ
御茶の沢用をそのこゐ。一せ人さかひよ。ゐ。こゝらさるせいゐ八のまくよまゐ
さうそあひ。うございます。サアおわゐんゐさいま
小八「ハさらせいよりのまるゐのそのけをゐ。ゐやひゐそるゐ。ゐ。ぐと。小「さ
まそのどうぐ〳〵とゐるとゐゐかまゐ。ちやうんゐよせ。
ゐふ。ごゐんりよゐのよいで。ゐやせうト。一ゐこゐの一せんくゐ。ゐ
小八「どうぞ茶をけてごさいま。ト。ちやうんを出ておいゐ
ちやうんゐ。ゐ。へイとまいゐ。ゐ。ごかりでごさいまして。ト。さうゐくと
也「さあうゐ。ゐ。おごさまゐ。ト。ゐ。ちやうんを出。ゐ
おまへ。ゐ。ちやうんを。ゐ。日のえゐあをさのゐ。ゐをあるゐ。ゐ。ちやを
ちやうん。一ッまいつぎ。ゐくゐれさとゐのよく。ゐんよやとけさゐのゐ。浅ゐそちゐ

[illegible]ちやうをさを　山「ハイこれ〳〵ト　ちやをがぶく　とまくりこそ　「さあうあらお
じぎうよどうぞこの漬の中へちんと實成うめてくだ
さいまし　ゆえん「ヲホ〳〵いろるす漬とハ何のことぞエ　ホ「
イエまあ〳〵ひらつて　中せべ式茶の中へお飯をモウ
ちんとあるのそ中まあ　ゆえん「ハイくころりまし　ろくのあるく
佛さまのぶつとあるさのごぜんを　少ハが自のたりる藝さんの中く　ゆえ「ヲヤ
茶〳〵しろ〳〵ボタンとあとせバ茶ぶかわぢうそて　山ハびろろ
どう　あませうコレハ兼わどこそ　ゆけどを〳〵　ゆアあさふ
るのいろエ　少ハのまく〳〵のとあるんどそ　ホ「イエどこも　何とも
さまあんさ成とく〳〵へく

ごさいません。中々腹の先きものこの無中でございます
ゆえ「何もるい代りさんとあるんるさいヨト　いせんとりこく　ちやくしまそかさ
ゆくりのめ　そうくあどそ成　ホ「ナニかさまりでも　何でるふうど
きこハちくりとえくとう
ざいます　けつくかるさまる方が目方が有て　徳用でこざ
います　ゆえ「ヲヤあまくさんよくおそちの中ゲええ
まそて　エト　とがあられ　これハあるゆ　そこがせるんのこゝのるちまと　ホ「何へ〳〵コレハヨ〳〵そ
まく〳〵　不思儀なるハ此所　ゆ　ハ此所　ゆ　ア　ノ所
佛檀の中ら光明がひらく〳〵光ると　ひまく〳〵さまく

どうもかう夜の明けさせうのあらうと思ひます。
〳〵お祖師さまの御利益でございませう。アレ
何をかをよく〳〵見えます。ヨク目があいてます。おえ
「ヤホレこちゝびなしのおぢの目があいてまし〳〵ヨウ」「ナ
明る〳〵どうもうも見えるる〳〵。コリヤ奇妙く。ナ
有がたい南無妙法蓮華経ト「ぢんぶつぢんぶつ」をとなへてとぶけるおまえ
ぼうぼうのお祖師さまよりあらたにあらたのとおもひをなぜと
思ひ今のうちにせうこの法花器のどぜんのどうぜんとおもひ
「あんまり有がたさに〳〵夢のやうでございますハ。

何をかう〳〵まをせう今朝ぢんぶつ〳〵いまをせんう〳〵ぢふ
やりまし〳〵その間を合せうと。お祖師さまの仏
膳をさげておまつさんよあげまし〳〵ぐそをを
あがらさ所利益で目がうえるのでございませう
ホン〳〵有がたい〳〵南無妙法蓮華経日蓮大菩薩
姫のうちお祖師さまかあ〳〵御利益をこぐさり
まして私迄有がたいるふどざりまして「さぐのるる
おづむそどふとりのぞ　ぞう
いなきいけてきうして
「おまんさんあらたの目があい

たとハほんのうるろ子「おでさんまア」お宮ヨ内の
子供祖師さゐの御猫をこのおあくさんよりでろ
せるら恩れ利益で目ぐ見えるとサ。お前も考へ
ておいでの通り内のお祖師さゐハ池上のとれ同
様ごといふので減多〳〵あくろぢやアございませ
んヶ「そをハア皆さのごんヂヤ祖師の利益
ふらう魂消やしさあんでも廣宣流布のおゐ信の
う志る人ハ毎アお寺特のあくハれやるよの〳〵

ヲいそれぐ思ひ出しやしこアノ筑羅房おでらの
むげつちゐ月須お祖ゐさゐをそらゝ毎るぐこ
んゐ時ハア御利益のウひけらゝて騰たまよ
をでんぐりうへさせて毎りヤンて五の〳〵あんこんゐ
らおゐのお傳へいろて代市利益をたるゝてお毎りる
小八八ゝゐりへこの子ゐを小「モシそり毎アゝふるゐ八〳〵
されぐふりぐるれると思ひ
ア筑羅房ゝらゝ毎ゝふいる祖ゝ毎ゝで昔駿さん
よ代ゝくあゝて因縁でゝらゝ頭へ毎ゝさんよ

とうつれるので中くさでるぢ母ごぜんや せん
らふそうえる因果あるのよ内利益をまもるく
お祖師さまの御苦労をけるよりまりくうんち
やつてお益をあせく一きんくら野のうれ利益
のうけさもやぐ多い人を助る、佛さまの道このー
ドレードレ走つて隣さアのートでもくまゆかんとあるんど
一ドふうせんと ヲイくお儲のとつさまや。お家のところ
久久てある
前人お家がおーん子ぐうちのお祖師さまの御利

中くで我目吸よりヤよーかいつよ有がくい
こんで泪ろころまろ前ヤのーこのるの光羅お
てこる市里中くで鶴のうぬけヤ人とこし心涼て
来るこのー 陰一ナ二ホ八八隣さ居母ろエ。そーて
目ろつふ母中くころハテとるさる紙しるる母三つふ
まる市里中くう育りくこそのふさまのつふれ目る
ころ大ろく吸さのこのーナニト不思儀おのんてこさん
あのう紙八それろ何ふーきるめのう原来吸くみる目

さあのう急につかまへてもしらなく野路がおくさへく
かしこもつよふう孫つくらそり帯をかしく孫人
こちへの亭主佐兵衛八方と浄土宗なれども女房の縁により日蓮宗の
おかうさまなれハ元ぶんのなかなれどもうんせん小八をめくらと思ひしも夢まきとゆるい
これと今題目弁ことさえよござゐ「さしハアこれなときこゆ中に
心まよひぞろく内へ入り来りて
誰もロイ…く者らさんなハドレさしふアお頭目中て難
のゥぬけて進まゐらせうのし 貸「アこれめうさる事をとー
て怪我てもさせちや毎ありハト 納所一人るもるところへ寺のなんし ともあ
ん仏さきはまし 先刻ハ御苦労さま 和尚もお悔なら

よりまして川なれども。急に頭痛が疝気に下がつて
死なれましたが且下がございまして今朝出ましてまいり徳きま
せぬゆゑ先私がおむかひに来りまして直さまお葬
式の儀をお頼み申してございます 延寿軒名前で「お茶さ
へ役のうちにて行ましたなり ○御隠居様の伝仁が今日
あくるがらさ目出度 その仕度をせいとおいしで
一ツ仲長家の佐次兵衛さんところへ伝仁がお出で
や 延寿「ソアそんでござりやす 先刻ようる九さんの寺

へ人をゆれとりひあきろて燈のまくんで出てゆうしまし
ゝぶ自分とおゆ　お寺さまであんでるよく納て
ねゃこんでゝんぶるをお初くセヤこんぺのモシ先ゞ初十上
ゝとゝアでゝい間遠でゝぶりヤ。まゞ申く　でもゝのい
死るハ法ヤるへゝ「さよるゝ往生を待ませう
ウナ　「ア　延命でも行く一生死るハしゆせんョ
それハ大きゝる力落　しぢや和尚が字きゝるゝさぞ
愁傷ゝぶりゝ山のせゝ拙寺もこの義お客が不底で

寺中一同裏の下の食でんの建立ゝさゝハゝえ居
ゝ残内方の佛ゞぶるゝと兼ゝゝゆ糸ゝ嬉しゝやゝ
本堂城ゝさゝしゝせい茶の仕度ハよいゝ火鉢ゝ火も入く
おけ青銅ゝ二十疋ハゝ立ゝ智ゝ門番ゝおいひ付て
庇を深く深ゝて　おけと行くゝとゝのくゝがゝゝる　ゝぶゝる
とゝるのくゝゝゝゝ　ゝぶゝりヤきゝとえませぬ者三さんぶきいく
あきれゝらアゝ「いゝゝよゝるゝゝいのくゝぶゝまゝゝるゝぶア
國ゝゝ中ゝ隆利中くでもあんでゝる者いゝゝ

さん瓢がぬけべいるするふとのこまけごゃぬのてゆ
ておこんるさろ。モレおお寺さるよハ仏若労さるてごさ
りヤさいづき佛よるり法井法方ろら知ト七て上
ヤべいまゆおろりるさろまつよ「さよるふもどりま
せうろいろそのるり生ありでもよろしふさて〜
義理のおかふとちやのヤいくトでゆくへかハてよきへ
どるろも所若労寺ハ勘を出ろでろしハ裏屋へ行
て宿道具式いい附てきま〜ご今とれへかつぎ込ま

きそそ「髪で施主ぶきまり安ア道ての出せる「チョウ
いまくしいヤレオアそるさろ舞ハいの行ろッてアらく
あの通りをどり出て若ヤに檀那ハ入りヤさるい
それさアこふきてくさまるりんさア止てくんるさろ「
アリそれハ又るもぶ大方麿ぶさ〜こであらろ。それ
るろ向裏の法印ぶ寿好ぶ〜〜そこきふ〜「
ろこんぶるもぶ法印ハいふるへ〜「ナザおめく生かく
き八月出ふ〜〜苑よきれば法被ざどの名入用のなる

法ぶつ　ぐさ〳〵　よんぐ置ぐるまハ〳〵ぐ多いヲイ法ぶ
ぐの〳〵ト　よびころれバ　そうあんぐ　ぐるげるく
「ハイヒ〳〵ろまト　入きるろぐのてとし　やまりうんたたく一
つたたむ　ぐるか　ぐるぐ〳〵　強飯ハまぐろ　延る「コウ〳〵　酒蒸べい
ぢやアござらまいせあてうちちの人遠でも真ぐ
めで蒸てくれるさろ　気のぐせぐーて月ぐまるり
ヤ　さアコレお嫁さんたゆ〳〵ごりゆ〳〵で抜ぐせてく
れるさろ　おぐむ〳〵　「それるさいつまりハ祖師
きゐぐの〳〵ごとく〳〵ごろアゆ〳〵のう知ふセヤウ南無

妙法蓮華経〳〵〳〵〳〵ト　ぐらぐを一ぎりやくんよ　ぐ
らぐぐを上へ引ぎめてぬぐたやく　ぐる
ちら〳〵「あのこ〳〵〳〵〳〵あらいてく〳〵誰ぐ〳〵ろうハ
まぐご死よハせぬト　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ
沖もとーやの男もとるる〳〵　ちら〳〵　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ
ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ
ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ
ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ
「南無妙法蓮華経〳〵〳〵〳〵ト　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ
つぐりとちらぐ　「あのこ〳〵〳〵〳〵いてく　ぐるぐ　ぐるぐ　ぐるぐ
ぬけるる　いてく〳〵　「ツリヤ御利益ぐサアく〳〵ろんまお題目ウ
とるるくまるさいありがろいく〳〵ちろ　「ちり利ゆ〳〵るおぞ

いとんごァとん者に鼻ぐ血ぐ出ヤ。ウヌ了簡ぐあぐ
ゑいゝ。「それハあんくぐ罪障ぐ深い、とんご
かゝ無強ハあけぬるよゝ。「イヤ此ごさる
わごい出ぐ強く引張バ已ぐぬのそもぬけるこんご
時。「アハハハハ笑ふ。「あくる極とれハアふどい仕利益ごア
笑。「ホハの明てある間ハなくし和尚の鼻をつぐ
て鼻ハあけゝ。ある法ごお祖師さゑハあるらいもの
ぐあゝ。「ホニ鼻も出安者まぐ。親子とも此

世ゝすでおあでこい。「とのふゝ蚤ぐをこいこんぐで
かりでとんごアさゝぐを出ぐ角ごとのお仕義さア。此
歩ごアろ三分ごアろゝとんあいとん者あアるまぐゝ早く
鼻をあちゝとわて鏡羅を助ごと方ごゝんぼと安上り
ぐ。保そ私ハア勝手ちあふものゝ。まぐ〳〵お湯さゑ
のあゝげて安心〳〵中てあるがゝいこんでござゝア。「
ナレハ〳〵ゝゝぐかげでいふあいこゝる祖師さゑの仕利
中〳〵さの〳〵。ドレ〳〵ゝゝとの仕利中〳〵を陽のお

手を
うたて
時
ちうし
二日灸

山花

よんこよ知らせまをう延る「ヤレまア」おだてさま待
あまさろ今一ツ献べいのゞ「いんゑ」お酒ゑ
第一ざのトでく「サアく」是からゞ酒ざお長
屋の元ぞッとこッちへあつめあせくそして法ゲ
さんもとやさんる独振舞も他生の縁ざえん
る車座で一盃そゞりやせう「それい茶あいよ
い所へまあく合まくこちゃ「酒と字ちゃア腰ゞ
ぬけまく延る「イヤお茶い正直でいそとで一首うんざ

延る「こるいく」このこちゃ長家のくくうちこちてゞこちくこさたとと
りかこづけえゑさこにまそそこくく平日この延る
西長家中さんひつホのこらまそせこうまあるゆゑるりあるゞもけゞのれいこ
がこさひこさるをらひつけてきみくくとめそこの一大酒とるこのこちゑ平ゞ
延る「アノ孫ひきんゞどと人ゆこうれくお拵でもまればいこよ
ゝ。ふとこころのくくこ湯上り延る「ヤレまア孫ひきんどれくゆこうく
ゝ。ふとこころくくこ湯上り延る「ヤレまア孫ひきんどれくゆこうく
まくこまゞ湯ちふこんでも有ヤまい。お長家の元
よえくこうヤて余り気の男ざアせ孫「ヲット

のこまふなをそう生生生まいれるとたてあまが氣
分きそう弱くなるぐが金くそうぢやア移人今向の物を
隠くく遠入てゐるこぐきわ小便のハけえと男が
表ろう前を出くッて戸をゆるやいるやこっちが
あるまろう小便をひうけ中。それくこっちが
おとこけまど出てる兼相ぐとつー妹ようお長家
社庇でふあり支達の和尚ぐるすてこんるれ中つう
いふるりのが心ろくく後もこまを移人ろうナこう

こぜくやもとんま兼れハお互ようちぐといつて
動弁いしゆしぐ頭顱ぐよごれてきた移人ろうそ
生で一下風呂つ遠入てき中このサ何い氣らくく
ろぐくく湯へ行くりのうる要「あるうりどそうなけば
無理ハるい「そきろくよく市動弁をおきろう
ぞとんぐめよ遠なまろう」ろマアくこっちくきて一盃おあ
ぐんるさい保ハ「へイ有ぐろうごぐい中延「よく動
弁のうしやる平日とい大ちひる保「まぐろうるる

めのさそんるるまで湯へいりてゝ毒理でハ有めへ要さ。
「今のハ盗ろ弥次「去れさるゝ。あるまかゝ小使をうけられ
て動毎まる奴ゞ有めのろ。まへ〳〵かつぐまこと迷ふ」と
方とんるアとんさらゝと思ふるとあれ有ることれとうこゝろ〳〵大体とうゝ〳〵ハ有るこれの
佐吉嘉勝「何ゞ此野郎めゞ盲人ゞ有るへのとりつて。人を
馬鹿ゝ去毎ゞ。ぐゝまゞまゝ〳〵仏の此利毎〳〵で
目ゝ明るゝとめゝして目明のあまて盲人ゝ去毎
がるハ「何ゝていろうをヤまゝう。ゝゝしの目の
又ゝ内ハ此家内さ毎ゞよく此ゞゝでゝきりまゝ。
金くお稼ぎさ毎の此利毎〳〵まちゞひゞきりません
供さ「ナニ〳〵ぬゝまゞ。うぬゞ友達の弥次さんゞ
よく去ゝてゝるハ。内のあゝんもゝおゝんゞ。らんる。ひゝ
ゝゝれめゝまゝれまさ稼ゞ去ゝ毎ゝ去ゝまゝ。
又ゝもお前ハ將の前ゝ去ゝる毎此ひゝ有る。あれゞど
内のお稼師さ毎ゞ稼ゞ此ゞの残平日氣ゞつゝ沢ゝ表
ゝるから今日の毎ゝめゞり毎くのゝ去さのも知まる

いのご今夏のお婆さんは籠屋さんの鍋のぬけ
さのも皆るを出ッてちゃアるいろそれぐかゝ念佛宗
の人程いやなものハあい（佐吉）ナニおのれ念佛宗の事
をがいやでとぬゝ〳〵おんくるゝ。サアいやるゝこの肉を
出ッてうやうまこ出て行てかゝらぬと後でお祖師
さまハおれがあぶりものゞ。これまハモウ構ハぬ出て
うせろ〳〵（おくれ）ヤ出て行くこんな内ハ何有る
ものゝ（佐吉）これ出るあらあもでお祖師さまゞ

みゞあをゝるゞ業和ゝそれとも力体ないと思ふ
あゝまれゞゐてお世話をヤせ。ありやアまれハ用
ハないお祖師さまゞ（おくれ）ゝ〳〵ゝ出ればお
祖師さまも一新よお連ヤ（佐吉）イヤそうハさせぬ。お
祖師さまハまゞ足止ゞ（おくれ）イヤくまこゞ連ヤ
そゝてお宗旨のお方を亭主に持ハ（小八）お宗旨
ハまゝくしも同じゝもゞけきゞ（おくれ）そんなおまへゞ
ちやうどいゝまゝ。亭主ハおゝりあさいヨ（佐吉）

「イヤそのハあれが亭主さまる　小八「エ　きびのうる
へ亭主ゞ二人ゐてどうするのゞ　佐「何のことゞ
らちもるいうぬから出へ〳〵出もぞ。ヲいへその
ゐ氏　彩ざっぷくらひをれト　松まつをあげて　小八をくらさんとすれば　「アレ
あぶるいお宗旨の人は怪俄をさてふまるの〳〵
佐「おのれ又いらぬ世話ト　二人り八方ふたそふふうぬさき食と
れぶらちくられてゐるのなと　小八ふざくしてとるりくゆげ
大変ゞ〳〵　佐「今時出て来ては大変とハ何の

とうと　小八「まア〳〵何ゐでもあとで分るちんとの名
どこぞへ出ぬ成かくてそんなせく。お助ゞ〳〵　佐「そ
れゐとゐる天四討まのあるうゞ。ゑう〳〵かくまるゐ氏樂
の中へでも這入がい〳〵　小八「こりでもかくでも何のでもい〳〵
ドレそれぢやアおゞざるしに成ゐ平安せうト　うんおけのふさをとうて中へえ
いるとるりうそいゐ　佐「でゐく〳〵お蔵てふさうそ〳〵のゞう喧嘩
でもおつちゞあさアう私　ホンニ佐さんがおこゐる声
ゞ。喧おんさんがこゐるゐうゐ　佐「何ゐるゐ〳〵ふちう

とも宝えね 御あぐらつゝ生ぜ せびハるまの

「ゞゝゝゝ もちゝゝとト ゝゝゝゝ 「その喧嘩で大さ

ゝだが出来ゆゝゝどうそ式桶のまゝ ゝぞゝゝく 那所

へでかゝゝて置てゝんるせへ 弥ひきん ひゝゝゝお米さ

「ソウ 折入てゝのまれゝゆゝ 原来敵同士ちゆゝゝ

うゝちゆゝてもおゝれゆへハテ。ゝゝ出ひ分ゝありそうな

ものゞゝ有ハゝく 少ゝの中そ 「有ゝゝく 「瓢箪や國ハ

どゝゞ ちゝゝ房ハゝゝ出たゝのの ちゝゝゝ 「モウゝく 瓢箪みやアこ

ゝゝゝゝ 「さゝゝき納所法印ゝさのんでゐゝさゝ

もゝゝゝゝ式方の内の寺へあづけるゝゝゝゝゝ 「まで

も里でもかまハ祢へ早くやッてくんなせへゝゝゝゝ

逃走の出れ 「ゝゝ ちゝ一肩ちゝゝやせゝ。何そゝ一役ゝそ

ゝゝ代をゝゝゝゝゝ 「ゝゝゝゝゝゝゝゝ

やア 「ゝゝ棒行ませゝゝゝ 「モシおまへゝ一肩ハ入れへくいゝ

ア 「ナンノけゝゝゝ 「ゝゝが方がゝゝり合ゝよい。盛衰記の辻

法印とゝゝゝゝゝ 「時のよういも法印ゝ死ゝゝ

を仕らんアヽ〳〵。サアやせう〳〵ト一盃機嫌うて小八
残へる樽柿をかつき出せハ。頬ハ友を喰のゐうえ
生醉とあらし長家の若者こちのおまハとう紙てゐ
る場ふつのてくうきゐるされと醉狂なことおまて
おゐて。先ゐゐる及ゐるべハ生さ亡者の野辺おくり
陽ハ佐六長陽が大声あて小八野郎ハどこゐうせとゐあ
く声ゐ。さてふまぐまづまう居ふぬうと小八樽の中ゐ
身ををぼめて。どゐぞ早く寺迄ゆつてくゐされ。あの親

仁ゐつるまつてふゐゐまらぬとかき説ゐゐ近ゐる浜辺
所も脳をかゐえ〳〵ふ陽のさゐ死打捨てもおこの
ま〳〵と居ゐゐと一同ゐゐりさゐえて佐六長陽夫婦を
おしなぐめさてふ笑ひのゐるひさごゐ鼻をいゐ出し
筑羅房一同ゐちまう大酒とゐり又陽長南とゐりあくぜ
風ゐゐで立さゐさけり醉おまて
くぐをまくげゐ系ゐち上戸
とうち毎ゐらの場をあでゐく香をき見ぬゐた

ひき入して完畢七ツ上近りれども思ひ入る日ゞ高
日と例の旅好延高筑羅房も原来遊興人の事
なれば同事おのとむるのあらんそれよりまぐさ人
仕度とりの人今日はかしまの立のきらゝ小草加泊ゆ
宮ゆ乗て烟紀山おとのくる小宿きぐゝと小八小八
置ゑ戒して渚茅橋旅衣きらゝなれよゝ馬道乃
往所をぞ立出ける

奥羽
一覧　道中膝栗毛巻之中畢

三十三